

「まえりあ」からわたし発信！ まえばしSNSを活用しよう

「まえりあ」って知っていますか？初めて聞く人もいるかもしれません。今回は誰でも気軽に参加できるインターネットの情報交換サイト「まえりあ」の世界を取材しました。担当は市民編集委員、杉崎・杉山

問い合わせは
情報政策課 ☎898-5883

市民が作る
市民編集
のページVol.69



いろいろな人とコミュニケーション。「まえりあ」とは、「まえばしSNS」の愛称です。64件の公募の中から選ばれました。現在の会員は約1,500人です。

誕生秘話と名前の由来

「まえばしSNS」とは「まえばし市民ネットワークシステム」の略語で、インターネットの情報交換サイトです。市民と行政が協働して地域の課題解決や市の活性化に取り組み、元気で楽しい前橋を実現するため、平成18年10月に始まり「まえりあ」は「まえばし」+「area(エリア)」の造語です。

こんな事ができます

日記やコミュニティの機能を使ってインターネットで気軽に情報発信や情報交換を行います。自分で書いた日記について誰かがコメントをして「友達の間」が広がります。

また、現在は約230のコミュニティがあります。身近で役立つ生活情報を紹介するもの、子供連れイベントやお出掛け情報を紹介するもの、おいしいお店を紹介するもの、大学や子育て支援団体、障害者支援団体やスポーツなど既存のグループの連絡用などさまざまです。

参加者の趣味や意見、地域情報など同じ目的を持ったメンバーによって情報交換。NPOや市民

団体、サークル、PTAなどの連絡用にも利用でき、使い方は利用者の工夫でいろいろと可能性が広がっていきます。

また、「まえりあ」で知り合った仲間が実社会で交流を持つなどの例もあります。今年はそれがさらに発展し、「まえりあ」で知り合った様々な団体の人たちが、みんなで実社会での活動成果を発表しようとして「まえりあ文化祭」を開くことになりました。

会員登録をするので安心

「まえりあ」を利用するには本名で会員登録することが必要ですが、基本的には公開されません。ネット上のコミュニケーションは自分で決めたニックネームで行われます。本名の登録制とすることで、お互いに安心して利用できます。

登録方法は前橋市のホームページから左下にある「電子行政サービス」の「まえばしSNS」をクリック↓「まえりあ」トップページの「登録する」をクリックして「会員情報」入力↓「会員規約」をよく読み同意ボタンをクリックすると登録が完了します。

利用者に話を聞きました

地域を元気にするために

南橋地区で「まえりあ」を地域づくりの一環と

して活用している宮本吉郎さんに話を聞きました。「『まえりあ』は、井戸端会議的な話ができ、地域密着型の連絡手段として活用されていますので、危険性がなく、楽しみながら利用できます」と話してくれました。インターネット全体に公開すれば「まえりあ」は地域の魅力を全国に発信する場としても利用できます。

「まえりあ文化祭」に向けて

次に「まえりあ文化祭」実行委員長の野口明香さんに話を聞きました。今年の11月23日(日)・24日(月)に初めて開催される文化祭に向けて熱く語ってくれました。

「『まえりあ』の面白さや活動を多くの市民に知ってもらい、今回の文化祭を機に、前橋を元気にしていけたらと思います」

当日はフィルムコミッションや「子どものくらしを守る会」のパネル展示、児童文学の原画展示、群馬の酒蔵の紹介、障害を持つ子どもたちによる楽器演奏、歌、紙芝居、劇を織り交ぜたステージ発表など、盛りだくさんの企画が予定されています。一般の人も無料で見学できますので、ぜひ会場の前橋プラザ元氣21まで足を運んでみてください。

「まえりあ」の持つ可能性と今後

「まえりあ」の利用については、常に相手の立場に立って、お互いに楽しむことを基本に成り立

前橋市役所ホームページ



「まえりあ」トップページ



野口 明香さん



宮本 吉郎さん

メールマガジンも活用しよう

「広報まえばし」をさらに楽しむ場として「前橋市メールマガジン『いきいき前橋』」があります。登録は前橋市ホームページの右下「いきいき前橋」をクリック！市政やイベントの最新情報などお得な情報満載。内容はアクセスしてからのお楽しみにも。私も早速登録しました。

なお、このメルマガには市民からの投稿コーナーがあり、市民の皆さんが行うイベントやボランティア活動について投稿を募集しているようです。掲載を希望する場合は、市政発信課(☎898-6642)へ問い合わせてください。

編集後記

今回の取材を通して、私が市民編集委員に応募した当初の問題「見えてきた気がしました。人と人とのつながり」です。いろいろな機会に人の輪を持ち、広げることが元氣になります。「まえりあ」がその一助として、発展していくよう期待しています。